

一九五三年のヨコハマを巡る

—又木誠八郎資料の写真から—

又木誠八郎は、本誌二二号において松本洋幸より紹介されているように、第二次大戦中に旧制中学の教員となり、戦後、新制高校の教員を長く勤め、また、バレーボールの普及向上に尽力し神奈川県バレーボール協会理事長などを務めた人物である。

この又木誠八郎の資料に、一九五三（昭和二八）年春に横浜を巡って撮影した写真二九枚を貼付し（二枚が欠）、詳細なキャプションを付したアルバムがある。これは、当時、病氣療養中の又木を慰撫するために教え子「S」と「O」が作成したものであった。末尾に「卯月十五日」とあるように四月に作成され、キャプションの内容から五三年三月の半ばから後半に市内を巡った写真が貼付されている。

※「」内はアルバムのカテゴリ、適宜、省略する。丸数字は写真番号、写真キャプションの[]の番号は、アルバムの写真番号である。

①「ハマの都心尾上町交差点の一角に見るからに感じの良い七階建鉄筋コンクリートの大和銀行ビルです。高層建築物の少ない横浜のこととしてこの白い姿はかなり遠くから眺められます。馬車道の朝日新聞ビルから移ったN、H、K横浜放送局（略）」もこの五階に間



写真1 大和銀行横浜支店（中区尾上町）[3]

借りしているようだ」。

このビルは、前年の一九五二（昭和二七）年七月に尾上町四―四七に開業している。手前に市電が写っており、縦横に市電が走る交差点なので、上の電線も縦横に走っている。

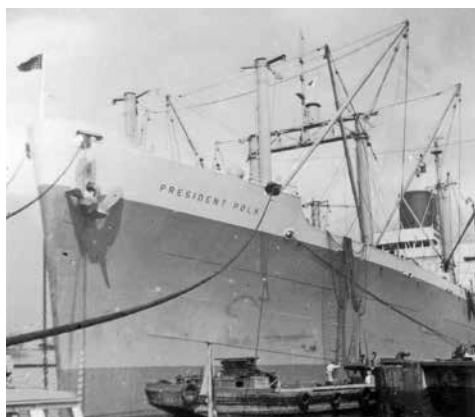


写真2 プレジデント・ポーク号（中区大棧橋）[4]

②「皇太子殿下の英国御出発を一週間後に控えたミナト横浜の大棧橋。今日もその準備で人が右往左往している。プレジデント・ウイルソンならぬプレジデント・ポーク号が入港しているが、当日の盛況は別として横浜の息の根はこのミナトなのだから、シーズンも近付き外人観光客も続々とやって来るだろうに、受け入れ施設の不充実から肝心のお客様はすどおりして鎌倉や東京へ行ってしまい単なる陸揚げ場だけの横浜となり勝ちなのは平和日本の玄関口に於ける唯一の悩みだろう」。

皇太子の渡英は、三月三〇日、プレジデント・ウイルソン号で大棧橋を出航している。プレジデント・ポーク号も同じAPLの船舶で、同月二三日前後に入港していたようである。



写真3 ミツ沢競技場（神奈川区）[7]

③「まだ我々が翠嵐に居た頃、日米対抗をめざして連日連夜の突貫工事で完成した三ツ沢の陸上競技場。〔略〕日本に一、二を数えられるトラックの特殊

設備、そのエンジ色と日一日緑を増そうとするフィールド、〔略〕その利用も他のグラウンドに比して少いくらい」。

日米対抗陸上は、一九五一（昭和二六）年七月から全国一箇所で開催され、最後となった横浜大会は八月二二日に陸上競技場開きと共に開催された。新聞では「八カ月を要するところを僅か百日間で仕上げた」、「米軍の好意によるブルドーザーが大活躍した」と報じている（神奈川新聞五一・八・二二）。エンジ色のトラックと緑色のフィールドの対比は、残念ながらモノクロ写真からは窺えない。当時、SとOは、県立翠嵐高校の生徒だったことが分かる。



写真4 戦没者慰霊塔（神奈川区）[8]

④「三ツ沢の戦没者慰霊塔。護国神社跡に建てられたもので、丁度この日の空の様に、暗雲たれこめたアジアの各地に露と消えた戦争犠牲者の為に作られたもの。バレー・コートから一段高く暫く砂利が敷きつめられ、昭和二十年の文字も何かを物語っている様だ」。



写真5 夜の野毛商店街 (中区) [9]

右奥に見えるのが、東急東横線の桜木町駅、建物は日本勧業銀行横浜支店(旧神奈川県農工銀行)。勸銀の手前にかつて桜川が流れており、緑橋が架かっていた。桜川は四七(昭和二二)年頃から

この慰霊塔は、一九四五(昭和二〇)年五月二十九日の横浜大空襲によって完成間近に焼失した護国神社跡地に、五二(昭和二七)年一〇月に着工、五三年三月に完成し、同年三月二日に竣工式並びに戦没者追悼式を行っている。後述のバレーボールのコートは、慰霊塔の近くに作られていた。
⑤「横浜と云えば伊勢崎町とすぐ出たほどの中心街ザキのオカブをすつかり奪ってしまった野毛商店街の夜の姿。野毛坂を伊勢崎町の方へだらだらと下ろうとしたところ。今では露天商も消え、雨が降っても傘要らずで歩ける歩道、ガラス張りの屋根の下に明かるくネオン・ライトが燈っている」。

⑥「交通地獄緩和策として桜木町、高島町間に側の桜川を埋めて道路を新設し、旧道路に市電を片寄せて桜木町方面道路とする、〔略〕堀を埋めたので不要となった緑橋撤去工事現場。トラクター左側の市電線路に直交して新道路が出来るわけです」。



写真6 緑橋撤去工事 (中区) [10]

では五一年のブームで急増し、この頃も人気を保っていた(『市政概要』一九五一年等)。

埋め立てが始まり、埋め立てが進むにつれて川沿いの露店が問題となった。一九五二(昭和二七)年になって、露店側では、既に埋め立てが終わっていた中区役所横への移転を希望し市が認めたので、次の写真にある二階建て延六七〇坪の桜木町デパートを建築し川沿いの露店を収容した。



写真7 桜木町デパート (中区) [11]

⑦「国際港都、船の玄関等と云われる横浜も裏をのぞけば、また風太郎の巣でもある。そしてその巣中の巣が、此処のイワウル「くすぶり横丁」(一名くじら横丁)である。しかし最近やっと取り払いが実現され写真の如くスマートなデパートと相成った」。

⑧「くすぶり横丁と云うと直ぐ連想されるのがこの船の家。水上ホテルである。〔略〕しかしいつかの沈没事件以来はた目でもいつ沈むかと気にか、柳橋から見た大江橋方面か。船を簡易宿泊所にした「水上ホテル」の事故は、一九五一(昭和二六)年一月、末吉橋(中区)に係留していた海神丸で起きていた。同船は一三〇トン、定員四〇人(「ホテル」経営者の話では一八〇人)のところ四二三人が宿泊しており、船底が川底と接触破損して浸水、満潮と共に転覆した。死者七人、重軽傷者七〇人の大事故となった(神奈川新聞五一・一・二三)。



写真8 「水上ホテル」、(中区) [12]

容して、五三年二月に開業したばかりであった。中区役所は、この写真では右奥隣となる。



写真9 中華街(中区) [13]

⑨「戦前の横浜のメリケン波止場と南京街は、一寸異国情緒があったそう。しかし昨今ではこゝにもパチンコ屋が現われるに至って高度な文明の交流(?)の姿を見せる」。

現在の善隣門辺り。パチンコは野毛商店街でも触れたように五一年に急増し、五三年でも店舗数は維持されていた。写真の右端に華勝楼の看板があり、その手前に萬珍楼が見える。その手前には、後に信用組合横浜華銀となる信用組合国際興業合作社の看板が有る。

同信用組合は五二(昭和二七)年一二月に開業し、五四年五月には改称しているのので、一年余りの間にしか撮影できない写真であった。

⑩「いつのまに出来たか知らなかった

が市電間門で降り、やゝ行くと、目の前に立派な飛行場が見える。アメリカさんのやることだから簡単に仕上げたことだろう」。



写真10 間門飛行場(中区) [14]



写真11 掃部山公園の労働者大会(中区) [17]

⑪「ポリスが二米位置いてずらり。こんなピケット・ラインと思いたくもこう多勢集ってはね。それは横浜交通労組を始めとする神奈川県下の交通関係の労働者総決起大会とか。所は掃部山公園広場だ。〔略〕沢山のスローガンと赤旗を掲げた会場に折りから続々と集

まる労働者連。それを取巻く武装警官の群」。

三月一四日に行われた「賃金値上げ、悪法粉砕県労働者大会」だと思われる(神奈川新聞五三・三・一五)。報道では、労働地評傘下一八単産、三〇〇〇人が参加したという。大会は木立の向こう側で全自動車産業労働組合の旗や「吉田内閣打倒」などのスローガンの一部を見ることが出来る。

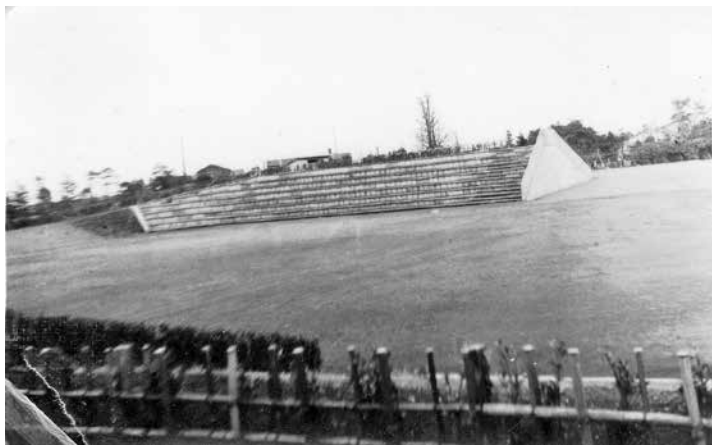


写真12 ミツ沢公園バレーボールコート(神奈川区) [27]

⑫「思い出の地こゝ、沢陵の一角を訪れて見た。あの日、第四回国体に初出場した我がバレー部。岡部さんの選手宣誓に始まる新装なった三ツ沢コートの熱戦四日間。応援団の一員として加わった我々にも一つの思い出となってい

る。健斗したメンバーの雄姿。それでこそ現大学の中軸選手を生み、バレー二高の名を轟かし得たのである」。

一九四九(昭和二四)年、第四回国民体育大会は東京を主会場として行われたが、バレーボールは三ツ沢が会場となった。コート一〇面が三箇所で作られ、入口左に男子四面、右に女子四面、突き当たりに二面が作られた(神奈川新聞四九・一〇・二八)。神奈川県立横浜第二高校(のちの翠嵐高校)の男子は決勝で静岡県立韭山高校に破れたが準優勝の成績を収めている。「今その面影を慕って来て見ると、シーズン・オフとは云え慰霊塔への通路としてメインスタンドの中央が切り開かれ、冬の間は子供の遊び場と化す、コートがこれなのだ」と変化も記している。

この他に伊勢山皇大神宮・野毛不動・野毛山動物園・遊園地なども巡っている。

末尾に「この小さな写真集が横浜特有の汐とバターと風太郎の匂いをよく運び得るかどうかは疑問だが、我々の小さな労苦が先生の闘病生活に大きなプラスとなってくれる様少し心臓が強いかも知れないが、ひたすらに願って居るわけです」と結んでいる。

【参考文献】

『横浜近代史総合年表』(有隣堂)一九九八年、『市政概要』(横浜市)各年、横浜市公園緑地行政資料調査会編『横浜の公園史稿』(公園部管理課)二〇〇三年。

(百瀬敏夫)